

平成29年12月21日



平成29年名古屋港10大ニュース
記者会見資料について
平成29年名古屋港港湾統計年推計

本日、会見発表しました標記の件につき、資料をお送りいたします。

(この紙を含めず14枚)

お問い合わせ先

10大ニュース

総務部広報・にぎわい振興担当 (担当：岡松・伊藤)
TEL 052-654-7957

港湾統計年推計

企画調整室統計センター (担当：北村・久米)
TEL 052-654-8019

平成29年（2017年）名古屋港10大ニュース

【総合】

- ◎ 名古屋港開港 110 周年

【物流関連】

- ◎ 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業、着工
- ◎ 「名古屋四日市国際港湾株式会社」発足、伊勢湾の港湾運営会社に指定
- ◎ 総取扱貨物量 16 年連続日本一へ
- ◎ 東航路の拡幅・増深完了
- ◎ 名古屋港の経済波及効果、約48兆円

【防災・危機管理関連】

- ◎ ヒアリ等への対策

【親しまれる港づくり関連】

- ◎ 名古屋港水族館 25 周年、ガーデンふ頭のにぎわい好調
- ◎ 中川運河での水上交通定期運航にむけた試験運航開始
- ◎ 金城ふ頭に新たなにぎわい施設誕生

名古屋港開港110周年

名古屋港が開港110周年を迎えた。一つの区切りとなるこの機会を捉え、名古屋港の歴史を改めて振り返り、人々に親しまれ、未来に向かってよりいっそうにぎわう名古屋港となるよう、既存イベント等を活用し以下の110周年記念イベントを行った。

開港記念日の11月10日（金）には、名古屋港ガーデンふ頭に練習帆船「日本丸」「海王丸」が6年ぶりに同時寄港した。（前は平成23年名古屋港管理組合設立60周年）寄港中は、帆を張る訓練「セイルドリル」、船内を見学する「一般公開」、帆船で行われる最高の礼式「登しょう礼」による出港が、2隻同時に行われ、各イベントとともに多くの来港者でにぎわった。

さらに、関連イベント参加者を対象に、フェリーを活用した「名古屋港開港110周年記念市民クルーズ」を12月24日（日）に開催する。

記念イベント	期 間	来場者数（人）
企画展「昭和時代の名古屋港」	7月15日～ 9月3日	35,655
練習船青雲丸一般公開	7月30日	543
砕氷艦しらせ寄港	9月29日～ 10月2日	9,710
練習帆船日本丸・海王丸	11月10日～ 15日	34,457
入港歓迎式典	11月10日	3,000
セイルドリル	11月11日	15,000
船内一般公開	11月12日	日本丸 4,573 海王丸 4,884
登しょう礼	11月15日	7,000
開港祭フレンドリーポート	11月12日	40,000
合 計		120,365

飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業、着工

飛島ふ頭東側に位置するNCBコンテナターミナルで、昨年度新規事業採択された「飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業」が着工した。6月4日（日）には、多くの港湾関係者の列席の下、NCBコンテナターミナルのR1岸壁で着工式典が開催された。

NCBコンテナターミナルは、邦船6社（当時）と名古屋港管理組合が共同設立した名古屋コンテナ埠頭株式会社が、港湾施設の建設・改良・管理などを行う特許会社として整備し、昭和47年に供用を開始した。現在は、港湾法に基づき港湾運営会社の指定を受けた名古屋四日市国際港湾株式会社が管理運営を行っている。

同コンテナターミナルは港内の東南アジア航路コンテナ貨物の4割以上を取り扱っているが、近年は自動車部品や産業機械などの東南アジア向けコンテナ貨物の増加に加え、カスケード現象^{*}による船舶の大型化に伴い、現在の水深12mでは喫水調整が必要なコンテナ船が増加している。今回のふ頭再編改良事業では、これに対応するため、同コンテナターミナルのR1・R2岸壁を対象として、岸壁とその前面航路・泊地を水深15m化・耐震化する。あわせて、コンテナ船大型化に対応したガントリークレーンや岸壁背後のふ頭用地の整備も予定している。

平成35年度を目途とし、施設の機能回復・強化と非効率なコンテナ輸送の解消を図ることにより、名古屋港背後圏に立地するものづくり産業の国際競争力強化を物流面で支えていく。

※ カスケード現象

コンテナ輸送の効率化に伴う基幹航路への新造大型船投入により、既存の船舶が他の航路に玉突き状に置き換わることでコンテナ船全体が大型化していくこと。

「名古屋四日市国際港湾株式会社」発足、伊勢湾の港湾運営会社に指定

本組合が中心となり設立した名古屋四日市国際港湾株式会社（名四港湾株）は、9月1日（金）に国から伊勢湾（名古屋港・四日市港）の港湾運営会社に指定された。これを受けて、同社は両港のコンテナターミナル等の運營業務を開始し、「伊勢湾で一つの港湾運営会社」が誕生した。

港湾運営会社制度は、民の視点を取り込み港湾運営の一層の効率化を図るため、平成23年3月の港湾法の改正により創設された制度。

名古屋港及び四日市港では同制度を活用し、これまで暫定的に各港の特例港湾運営会社によるコンテナターミナルの運営が行われてきたが、本年9月に特例期間が終了することから、伊勢湾で一つの港湾運営会社による一体的なコンテナターミナル運営の実現に向けて、本年5月に両港の港湾管理者の出資により名四港湾株が設立された。その後、同社は、本年6月に国に港湾運営会社の指定申請を行うとともに、指定要件である民間資本の受け入れも行った。

名四港湾株は、中部圏の経済・産業活動や人々の暮らしを支える信頼性の高い港湾インフラを構築していくとともに、民の視点による効率的な港湾運営に積極的に取り組み、伊勢湾の国際競争力強化に努めることが今後期待されている。

総取扱貨物量16年連続日本一へ

平成29年の名古屋港港湾統計の推計値がこのほどまとまった。

総取扱貨物量は、1億9,600万トンと、16年連続で日本一を堅持する見込みとなった。

また、外貿コンテナ取扱個数は、259万TEUと、全国第3位の見込みとなった。

外貿では輸出で完成自動車等が、輸入で原油等がともに減少し前年より減少となるものの、内貿では完成自動車に移出入ともに増加し前年より増加となる見込み。

貨物の内訳では、背後地域の産業構成を反映して、完成自動車、自動車部品、産業機械の輸出と、LNG、鉄鉱石、原油、石炭などの産業及び暮らしを支える原材料の輸入が大きなウエイトを占める。

取扱貨物量	平成29年推計値	平成28年実績	前年比 (%)
総取扱貨物量 (千トン)	196,000	193,257	101.4
外貿コンテナ取扱個数 (千TEU)	2,594	2,491	104.1

東航路の拡幅・増深完了

7月、名古屋港の主要航路である東航路（延長10,000m）の拡幅・増深工事が完了した。これにより、航路幅580m、水深16mでの供用となり、航路幅不足に伴う船舶航行時の制約条件の緩和が期待される。

東航路は、幅員500m、水深15mで供用されていたが、近年のコンテナ船の大型化に対応し、平成17年に東航路の拡幅・増深の工事に着手。平成22年度に航路幅580mへの拡幅を終え、平成27年10月には580mのうち420m部分について、水深16mによる暫定供用を開始していた。

また、平成26年度に海上部の嵩上げが概成していた高潮防波堤の改良工事が3月に完了した。

高潮防波堤は、昭和34年の伊勢湾台風での高潮被害を教訓に、高潮や波浪の威力を減殺することを目的として昭和39年に完成した。老朽化対策に加え、巨大地震や、地震後の津波や伊勢湾台風クラスの高潮が来襲した場合においても防波堤機能を果たすことができるよう、平成25年に改良工事に着手し、平成26年度には海上部の嵩上げなどを終え概成していた。

名古屋港の経済波及効果 約48兆円

5月30日(火)名古屋港管理組合は「名古屋港の地域経済に及ぼす影響調査」の結果を発表した。調査の結果、名古屋港は地域経済の中で重要な役割を果たしていることが、改めて明らかとなった。

この調査は、名古屋港の果たしている役割や重要性、港湾機能強化の必要性などを示すことを目的として、名古屋港が背後地域経済に与える影響を定量的に分析しているもので、5年ごとに実施している。

各都道府県の1年間に行われた財やサービスの取引をまとめた最新の産業連関表を利用して、港湾関連事業者へのアンケート結果と各種統計資料をもとに日本全国、愛知県への経済効果を分析し、さらに県内は名古屋市など4つの地域に分けて各地域への経済効果を推計した。また、今回は、自動車産業の経済波及効果についても分析を行った。

【調査結果の概要】

(1) 名古屋港の経済効果

名古屋港が日本全国にもたらす経済波及効果は、約48兆円であった。

このうち、愛知県内への経済波及効果は約32兆円で、愛知県内生産額約72兆円の約44%に相当する。地域別では、名古屋市が約8.4兆円、尾張地域(名古屋市を除く)が約10.6兆円、西三河地域が約10.9兆円、東三河地域が約2.0兆円となった。

また、名古屋港が愛知県へもたらす経済波及効果約32兆円の内、自動車産業が占める割合は約34%(約11兆円)となった。

名古屋港の経済活動により創出される雇用者数は、全国で約189万人であった。このうち、愛知県内への雇用創出効果は約121万人で、愛知県内の就業者数約368万人のおよそ3人に1人に相当する。地域別では、名古屋市が約42万人、尾張地域(名古屋市を除く)が約40万人、西三河地域が約32万人、東三河地域が約7万人となった。

(2) くらしを支える名古屋港

日常生活の中で消費している代表的な生活用品を対象として、名古屋港を経由している割合を推計したもの(金額ベース)。愛知県民が購入・消費する生活用品のうち、衣類の約76%、家具の約56%は、名古屋港を経由して運ばれている。

ヒアリ等への対策

6月27日(火)、鍋田ふ頭コンテナターミナルで、中国南沙港積みのコンテナを搬出する際にコンテナ外部で発見されたアリが、同月30日(金)、南米原産で毒を持つ特定外来生物のヒアリと同定された。国内でのヒアリの発見は、5月26日(金)、兵庫県尼崎市で初めて発見されて以来3例目となった。名古屋港では12月20日(水)までに、ヒアリと同じく特定外来生物のアカカミアリを含めて8例が確認されている。

名古屋港管理組合は、環境省中部地方環境事務所、国土交通省中部地方整備局、愛知県、名古屋市をはじめとする関係機関と連携し、目視点検、トラップ設置等、水際での防除に取り組んでおり、この他、港湾関係者、民間事業者、県民・市民に対して、文書、ポスター、ホームページにより注意喚起等を継続して行っている。今後も、関係機関と連携した調査と防除等を継続していく。

名古屋港水族館 25 周年、ガーデンふ頭のにぎわい好調

名古屋港水族館は、平成4年10月に現在の南館がオープンして以来、今年で開館25周年を迎えた。本年4月29日（土）には、25年間を振り返る映像放映とともに、新しく仲間入りしたベルーガとバンドウイルカの赤ちゃんの愛称発表等の記念セレモニーが開催された。また、25周年を記念としたクラゲの特別展が人気を博した。

6月15日（木）、名古屋港管理組合は繁殖を軸にした学術研究及び教育展示を目的として、雄シャチ「アース」を買入れ、本組合所有の「リン」とともに、雌雄のシャチによる主体的かつ継続的な繁殖研究に取り組んでいる。また、「アース」と「リン」は、ゲート通過訓練を経て、7月21日（金）からメインプールにおいて公開トレーニングを開始した。さらに同日には、ゴマフアザラシとケーブペンギンを間近に見ることができる「ごまちゃんデッキ」が、新たにオープンした。

これらの取組により入館者数は前年比112%（11月末現在）となり、にぎわいを見せている。

また、昨年に続きバンドウイルカ1頭が9月23日（土）に誕生し生育しているとともに、バンドウイルカ1頭が人工授精によって妊娠し、無事出産（30年5月頃予定）すれば、千葉県鴨川シーワールドでの2例に続く、国内3例目の事例となる。

南極観測船ふじについても、開館30周年事業として、「ふじの功績と南極の魅力を探る」をテーマとして3月25日（土）にリニューアルオープンした。実物やライブラリー、「ふじ」の航海や南極大陸の旅の臨場感を体験できるシアターなど、南極観測船が果たした役割、南極の自然、南極観測の歴史や意義、成果を分かりやすく紹介する展示を行っている。

また、これらの施設が立地しているガーデンふ頭については、更なるにぎわい創出を図り、再開発の実現性や民間事業者の進出意欲を高めるため、「多くの人々を呼び込むにぎわいの創出」、「人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供」を基本方針とする「ガーデンふ頭再開発基本計画」を9月22日（金）に策定した。今後、この基本計画に基づき、民間事業者のアイデアや意見を把握していく。

中川運河での水上交通定期運航にむけた試験運航開始

中川運河の再生と名古屋港のにぎわい創出を図るため、名古屋市と連携し、中川運河とガーデンふ頭及び金城ふ頭を結ぶ水上交通の試験運航（愛称「クルーズ名古屋」）を10月8日（日）から開始した。これに先立ち、同月7日（土）には中川運河堀止の船着場前で出発式が開催された。この「クルーズ名古屋」では、運河水面から見える名古屋駅のビル群や昔ながらの倉庫群、名古屋港での大型船が往来する姿等が楽しめるほか、パナマ運河と同じ仕組みで水位差を調節する中川口通船門での通航を体験することができる。

今後は、定期運航に向けた採算性等の検証を行い、民間事業者による航路開設を促していく。

また、中川運河堀止では、訪れた人々が港の雰囲気を楽しむことができる水辺空間として、堀止緑地の整備を進めており、4月1日（土）より一部を供用開始した。堀止緑地では、イベント開催時等に、ささしま親水空間として、名古屋市が整備している隣接公園等との一体的な利用を行っている。当該親水空間の愛称は一般公募され、「チャンネルパークささしま」に決定した。

そのほか、名古屋港管理組合では、中川運河沿岸用地への新たな土地利用を展開するため、2地区で公募を行った。その結果、「カフェレストラン、デリカテッセン」、「調理器具販売店、自社製品ギャラリー」（ともに長良橋周辺）がそれぞれ立地することとなった。

金城ふ頭に新たなにぎわい施設誕生

4月1日(土)、金城ふ頭では、日本初上陸となるレゴ®ブロックの屋外型テーマパーク「LEGOLAND® Japan」がオープンした。約9.3ヘクタールを有する敷地は7つのエリアから構成されており、40以上のアトラクションやショーが楽しめる。なお、9月18日(月)には、総来場者数100万人を達成した。

3月30日(木)には、LEGOLAND® Japanの開業に先立ち、「モノやコトをつくる喜び」をテーマにした物販、飲食、エンターテインメントの複合商業施設「メイカーズピア」がオープンした。LEGOLAND® Japanの東側に隣接する約2.4ヘクタールの敷地に、飲食や物販の店舗や体験型施設が点在し、エンターテインメントの要素を取り入れた「非日常的な空間」を提供しており、灯籠まつり、野外音楽フェス、クリスマスイルミネーション・クリスマス噴水ショーなど様々なイベントが開催されている。

また、金城ふ頭では、水族館「SEA LIFE Nagoya (平成30年4月15日オープン予定)」や宿泊施設「LEGOLAND® Japan Hotel (平成30年4月28日オープン予定)」の建設工事も進んでおり、さらなるにぎわいが期待される。

【総合】

名古屋港開港 110 周年



【物流関連】

飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業、着工



「名古屋四日市国際港湾株式会社」発足、伊勢湾の港湾運営会社に指定



総取扱貨物量 16 年連続日本一へ



東航路の拡幅・増深完了



名古屋港の経済波及効果、約 48 兆円



【防災・危機管理関連】

ヒアリ等への対策



【親しまれる港づくり関連】

名古屋港水族館 25 周年、ガーデンふ頭のにぎわい好調



中川運河での水上交通定期運航にむけた試験運航開始



金城ふ頭に新たなにぎわい施設誕生



※各写真はデータでも提供可能です。

kouhou@union.nagoyako.lg.jp

名古屋港管理組合広報・にぎわい振興室までご連絡ください。

平成29年名古屋港港湾統計年推計

入 港 船 舶		平成29年推計値	平成28年実績	前年比(%)
総 数	隻数(隻)	33,000	32,954	100.1
	総トン数 (千総トン)	229,000	238,402	96.1

取 扱 貨 物 量		平成29年推計値	平成28年実績	前年比(%)
総取扱貨物量 (千トン)		196,000	193,257	101.4
内 訳	外貿貨物	128,000	128,476	99.6
	内貿貨物	68,000	64,781	105.0
コンテナ総取扱個数 (千TEU)		2,792	2,658	105.0
内 訳	外貿コンテナ	2,594	2,491	104.1
	内貿コンテナ	198	167	118.6

平成28年までの最高記録

入港船舶隻数	72,521 隻	昭和44年
船舶総トン数	241,783,906 トン	平成19年
総取扱貨物量	218,130,496 トン	平成20年
外貿貨物量	140,611,794 トン	平成25年
内貿貨物量	80,685,587 トン	平成19年
コンテナ総取扱個数	2,896,221 TEU	平成19年
コンテナ個数(外貿)	2,638,447 TEU	平成19年
コンテナ個数(内貿)	257,774 TEU	平成19年

※ 内貿コンテナは平成10年より集計開始

平成 29 年名古屋港港湾統計年推計

平成 29 年名古屋港港湾統計の年推計は以下のとおりとなりました。

入港船舶の総数は、外航船で、自動車専用船等が減少したが、内航船で、一般貨物船等が増加し、隻数は 3 万 3,000 隻（前年比 0.1%増）と前年並みで、総トン数は、外航船で、コンテナ船等が減少し、2 億 2,900 万総トン（同 3.9%減）と前年より減少する見込みです。

総取扱貨物量は、外貿貨物が 1 億 2,800 万トン（同 0.4%減）となり、輸出では完成自動車等が減少し、輸入では原油等が減少し、ともに前年より減少となる見込みです。内貿貨物は 6,800 万トン（同 5.0%増）で、完成自動車が移出入ともに増加し、前年より増加となる見込みです。全体では 1 億 9,600 万トン（同 1.4%増）となり 16 年連続で日本一を堅持する見込みです。

また、外貿コンテナ取扱個数については、259 万 TEU（前年比 4.1%増）となり、全国第 3 位となる見込みです。